



駅頭で訴える佐々木あつ子市議

佐々木あつ子の お約束

- 清瀬小と八小統廃合にストップ
- 学校給食費の無償化を
- 国保税の子ども減免の継続を
- 特養ホームの設置を
- 補聴器の購入助成を



市民と地域で
ウオッチング

- 多摩北部医療センターをお産ができる施設に
- ジェンダー平等を 多様性を認めるまちに
- 農地、樹木を守り、気候危機対策を
- けやき通りの歩行者安全対策を

佐々木あつ子さんに期待します

ブレない、カッコいい人

衆議院議員 宮本徹



ブレない、カッコイイ佐々木あつ子さんは、困難を抱えている人の頼れる強い味方。市議会第一党、日本共産党の大黒柱として、学校統廃合などおかしな計画に立ちはだかり、積極提案で市政を動かす。清瀬市議会になくってはならない人です。

市民の大変さをわかっている

中里5丁目 高田ミハ子



佐々木さんは子育ての大変さ、医療・介護の大変さをよく知っています。市民の大変さを下支えする施策を提案し、市政を前に進めるために必要な人です。

懐の深い人、心から尊敬

都議会議員 原のり子



清瀬市議団の大黒柱で、いつも全体のことを考え、支えている懐の深い人。たくさんの生活相談に寄り添い、同時に、抜群の論戦力で市民とともに市政を動かす、かけがえのない議員。心から尊敬しています。連携して頑張ります。

生活相談の専門家

元町 松良寿美子



医療の専門家がいまや生活相談の専門家。相談事はすぐに会って話を聞いてくれます。とにかく早い。元町の道路のことも心配してくれています。何かあったらあつ子さんです。

日本共産党

佐々木あつ子

清瀬市議会議員 (6期24年)



岸田政権の大軍拡NO!

くらしを守り憲法を生かす政治を

ごあいさつ 新型コロナ感染拡大でのつらい経験。「何よりも命が大事」だと実感します。せい弱な医療体制と保健所不足を招いた責任は、今の政治にあります。そのうえ、今度は大軍拡と増税です。社会保障を今以上に壊すなど、許してはなりません。

清瀬市でも弱いものにより厳しい市政になっています。敬老祝い金のカットやおむつ助成の削減、緊急福祉資金貸付制度を廃止してしまいました。

市民の命とくらしを守る市政に変えるために全力をあげていきます。お力添えをよろしくお願いいたします。



2022年の憲法集会に参加

プロフィール

- ◆1957年生福岡県飯塚市生まれ・下清戸在住
- ◆家族 夫 一女一男 猫1匹
- ◆1999年市議会選挙 初当選 現在6期目
- 副議長 厚生常任委員長 庁舎建設特別委員長を歴任 現在 建設環境常任委員 柳泉園組合議会議員
- ◆現在クリニックでエコー技師として勤務
- ◆趣味 ドライブ 落語 大相撲

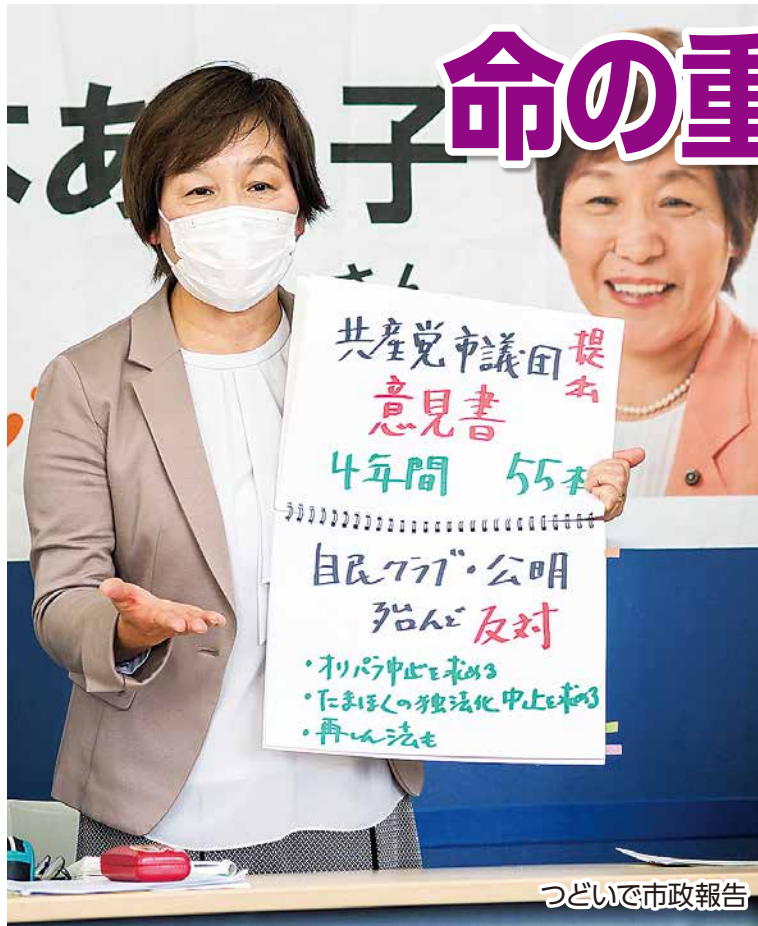


活動地域 元町全域/上清戸2丁目/中清戸2・4丁目/下清戸2丁目/中里3丁目の文化村・高根台/中里5丁目

清瀬新聞

2023年1・2月号外 発行/金丸一孝 清瀬市元町2-4-4 日本共産党清瀬市委員会の見解を紹介します。

命の重みをにぎりしめてー 佐々木あつ子です



つどいで市政報告

議会質問

苦しむ人をどう助けるか

「生活が厳しい」「負担増で困っている」との声がたくさん寄せられます。暮らしを守るのが政治の責任。課題は山積です。

市民の負担軽減をどう実現するか、予算の組換え案を提案しています。都や国との連携も必要です。

一歩でも前に進むため、粘り強く議会で提案してきました。

〈提案しました！〉

- ・学校給食の無料化を提案 (意見書が可決)
- ・エアコンが1台もない家庭への購入助成を (2022年9月 条例提案)
- ・国保税 子どもの均等割減免へ (2018年3月 条例提案)
- ・3万円の緊急福祉資金の復活を (2021年 予算組み替え案)

市民が主人公

いつも一緒に考え、一緒に行動

日本共産党市議団は、市民アンケートや予算要望懇談会を毎年実施しています。市政を変えてほしいという市民のみなさんの思いがつまっています。

市政を前に動かすのは、市民の力です。切実な要求の実現めざし、学習会を開き、市民に知らせ、署名を集めるなどしています。



生活相談

“痛み”はほっとけない

市民の悩みや困っていることに、正面から向き合ってきました。暮らしの苦しさは、「自己責任」ではありません。

政治の悪さを一緒に感じて、一緒にのり越えるために、いつも親身にと心がけています。

「死ななくてよかった!」

長い議員生活のなかで、「それならあつ子さんへ」と、人づてに生活相談が入ることがよくあります。

ある男性は、「仕事がなくなり収入が途絶えた。弟から佐々木さんのところに行けと言われた」と。

私はお話をよく聞いて、一緒に生活保護の申請へ。アパート探しもお手伝い。「死ななくてよかった」と言ってくださいました。うれしい瞬間です。

あつ子の論戦ハイライト

佐々木「清瀬小・八小の統廃合計画は中止すべき」

くり返しの議会論戦で、市長に「強行しない」と言わせました。しかし、統廃合計画は撤回されていません。断念までもう一押しです。市民のみなさんとさらにがんばります。

2022年6月9日代表質問の抜粋

佐々木市議 本市の示す児童数の推計は、開発による人口増は想定していません。清瀬第八小学校と清瀬小学校の学区には、現在整備中の都市計画道路が3本あり、マンションなどの開発による児童数の増加が見込まれます。人口減などの前提が崩れている統廃合の計画は一旦立ち止まるべきです。

渋谷市長 清瀬小学校の児童数は現在、増加傾向にございます。清瀬小と八小を統合する時期につきましては、今後の人口動態を注視した上で総合的に判断してまいります。

佐々木市議 八小の地域も164戸も宅地が増えているんですよ。

渋谷市長 私どもとしては計画を強行しようということは考えておりません。人口減少社会に突入をしていくという国ならびに東京都の判断の中で、私どもとしても公共施設再編計画を立てなければいけないということで、今回の学校の再編についても検討させていただいているところであります。



私のあゆみ

いのちと平和が一番!

◀◀ 今も医療現場に ▶▶

臨床検査技師として、今も患者さんのエコー検査をしています。早期発見、早期治療につながるよう、技術の研磨と患者さんどう向き合うかに心を砕いています。



◀◀ 原点の「命」と日本共産党 ▶▶

私は41歳で日本共産党に入党しました。当時は医療制度改悪で負担増が押し付けられていました。検査中に、「医療費が大変。悪い病気が見つかったことを家族に言えない」という患者さんがいました。

人の命と暮らしをまもる「医療と福祉」。国会や医療現場でこの問題を一貫して追求する日本共産党に出会い、私は自分の生き方に迷うことなく入党しました。

◀◀ 海軍少年兵だった父 ▶▶



予科練に入隊した頃の父

父は、1945年に10代で予科練に入隊し、神風特攻隊員に。同僚が次々と戦死していくなか、自分が飛び立つのはいつかと不安な日々を過ごします。8月15日の終戦で救われたという父の話は、脳裏に焼き付いています。

ロシアによるウクライナ侵略に、戦前の日本が重なります。戦争する国ではなく、憲法9条を生かした平和外交の国をこそと思っています。